

第一回

教養としての認知科学

pp. 92 - 100 潜在記憶、間接プライミング (意思決定への影響は、最近の「行動経済学」関係書籍で)
pp. 232 - 233 サブリミナル効果

第二回

心と脳

pp. 123 - 132 言語学
pp. 139 - 145 自然言語処理、理解
pp. 156 - 159 文化と問題解決

p. 116 プロトコル分析
pp. 162 - 163 プロトコル分析
pp. 199 - 201 事後報告やアンケートによる実験とプロトコル分析

pp. 189 - 198 人間主体の知識、言語、問題解決から、文化、状況、社会的相互作用への注目

教養としての認知科学

pp. 113 - 120 私たちの知識のはかなさ、もろさについて、最近の仮説

このほか
発話の参加者、役割 (H. H. Clark, 1966) そのほか、通信におけるコミュニケーション (ブルーボックスから)

Change blindnessほかの資料、Griceの公準 (協調的な会話)

小笠原ゼミ
教養としての認知科学
pp. 149 - 165 人間の推論、問題解決

心と脳
pp. 160 - 163 問題解決と人工知能
pp. 198 - 199 SOAR, ACT

第三回

心と脳
pp. 2 - 4 最初にコミュニケートする人間 伝達、推論、共感
pp. 61 - 66 コミュニケーションと社会
本文中のあちらこちらに赤ちゃん (認知発達) 研究の引用
たとえば、pp. 203 - 216 社会的な知性

教養としての認知科学
pp. 248 - 249 個人のクオリア、意味のプロジェクション

ノーマンの7段階モデル、メンタルモデル、アフォーダンス (ノーマン、「誰のためのデザイン」の解説)
社会心理学の資料 (技術者倫理配布資料)